第45期 年次報告書

平成25年5月1日～平成26年4月30日

MICS化学株式会社

JASDAQ
証券コード：7899

株主の皆様へ

平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、当社第45期（平成25年５月１日～平成26年４月30日）の報告書をお届けするにあたり、業務の概況及び業績等についてご報告申し上げます。

当事業年度は「営業の概況」でご説明いたしますように、政府の金融緩和策や経済政策を背景に企業収益の改善等、緩やかな回復基調が続いていますが、消費税増税の国内景気への将来的な影響も懸念され、依然として厳しい年でありました。

このような状況のなか、連結売上高は26億53百万円、経常利益は55百万円と前期を上回りましたが、当期純利益は24百万円と前期を下回る結果となり、期初目標は上回ることが出来ませんでした。

この１年は「営業力」、「製造力」、「開発力」、「開拓力」の『４つの力』をスローガンに重点施策として

①シェアー拡大：主力４製品の徹底的拡販

②次世代製品の開発：脱包装・高付加価値化

③新市場開拓へ勇気ある挑戦

④底力ある利益体質定着にむけた意識改革

に取り組みましたが、増収の一方、残念ながら減益となりました。『４つの力』による結果が出てくるまでには今しばらく時間を要します。

なお、配当金につきましては、今後の新製品開発や品質向上にむけて、積極的な投資を継続的に計っていくための資金需要などを鑑み、期末配当金を１株当たり４円とし、平成26年１月に実施済みの中間配当金１株当たり４円を加え年間配当金は１株当たり８円とさせていただきました。

株主の皆様におかれましては、いっそうのご理解をいただき、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
三宅利定

平成26年７月

今後の見通し

今後の見通しといたしましては、海外では領土・領海問題や核開発問題などによる一部地域の政情不安から来る経済への影響で先行きの不透明感もありますが、一方ではアジア新興国の景気持ち直しも期待されております。

また、国内ではアベノミクス成長戦略の推進により景気回復基調が期待されますが、その行方についてはまだ確固たるものにはなっておらず、世界経済情勢の変化に連動して下振れ懸念もあります。

したがいまして当社グループを取り巻く環境は厳しいものと思われます。

さらに、為替や原油価格の動向は当社の経営を大きく左右する要因と予想されます。

このような環境のもと、当社グループとしましては、「変化を恐れず、挑戦し続け、チャンスをつかむ」、すなわち、「CHANGE、CHALLENGE、CHANCE」をスローガンに以下の重点施策

①主力商品のパワーアップ：主力５品目の強化

②次世代製品へ果敢に挑戦：既存製品の用途開発とシーズ型新製品の開発強化

③次世代を見据えた新興市場へ勇気ある挑戦：大市場がある海外戦略を明確化

の取り組みを着実に推進し、さらにお客様のご要望に応えられるサービスを持続的に提供していくことにより競争力を維持強化し、更なる飛躍を目指してまいります。

売上高	次期予想（第46期）	2,800百万円	（前期比	5.5％増）
	当期（第45期）	2,653百万円		
営業利益	次期予想（第46期）	80百万円	（前期比	118.7％増）
	当期（第45期）	36百万円		
経常利益	次期予想（第46期）	85百万円	（前期比	53.1％増）
	当期（第45期）	55百万円		
当期純利益	次期予想（第46期）	35百万円	（前期比	44.6％増）
	当期（第45期）	24百万円		

営業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の金融緩和策や経済政策を背景に、企業収益の改善等、緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、消費税増税による国内景気への将来的な影響も懸念され、景気は依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは主力の食品分野におきましては、深絞り用フィルム、三方袋規格品をより多くのお客様に認知していただく新製品の拡販や、非食品分野では自動車関連、メディカル用途のシェアを増加し、リスク分散を図る活動に努めてまいりました結果、売上高は26億53百万円（前連結会計年度比3.3％増）となりました。

一方厳しい経営環境の中、全社挙げての経費削減はもとより、複数社購買や海外原料調達など効率的な原材料購入も引き続き実施、今後の売上確保のためのインフラ整備と設備の充実を図りました結果、36百万円の営業利益（前連結会計年度比64.7％増）となりました。なお、営業外収益として貸付金の受取利息等の計上を加算した後の経常利益は55百万円（前連結会計年度比29.0％増）、当期純利益は24百万円（前連結会計年度比17.3％減）となりました。

用途別の売上高につきましては、食品分野では、深絞り用フィルムの拡販、低カール規格袋の導入など機械対応需要への拡販を目指した結果、16億12百万円（前連結会計年度比1.5％増）となりました。

非食品分野では、輸出用を含む電子分野は不振でしたが、機械部品向けや自動車産業向け製品及び医療分野向け製品が堅調に伸びました結果、５億18百万円（前連結会計年度比5.5％増）となりました。

商品等につきましては、前連結会計年度同様に突き刺し強度の高いフィルム（SPパック）が堅調な推移をみせ販路が拡大してきており、５億22百万円（前連結会計年度比7.0％増）となりました。

用途別売上高は次のとおりであります。

売上高の内訳

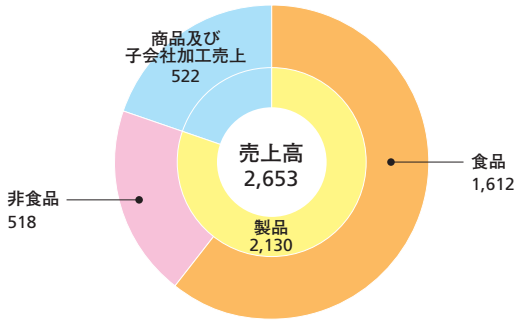
（単位：百万円）

用途別		第45期（自 平成25年5月１日 至 平成26年4月30日）	前連結会計年度比（％）
製品	食品	1,612	1.5
	非食品	518	5.5
	製品合計	2,130	2.4
商品及び子会社加工売上		522	7.0
合計		2,653	3.3

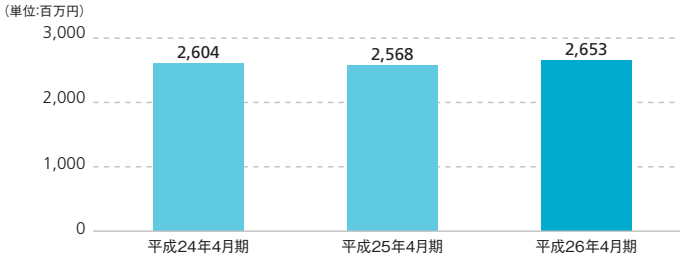
（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

第45期実績

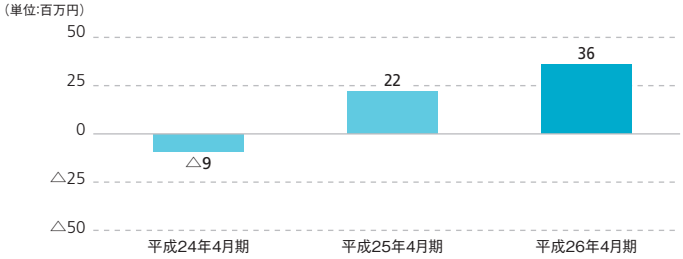
（単位：百万円）



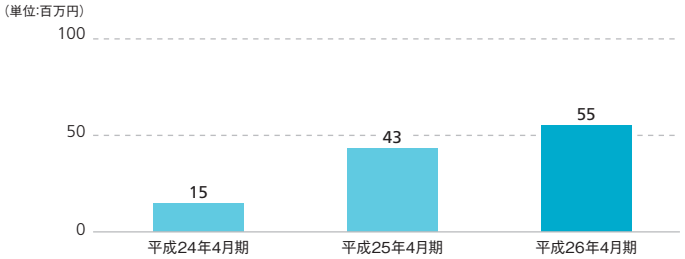
売上高



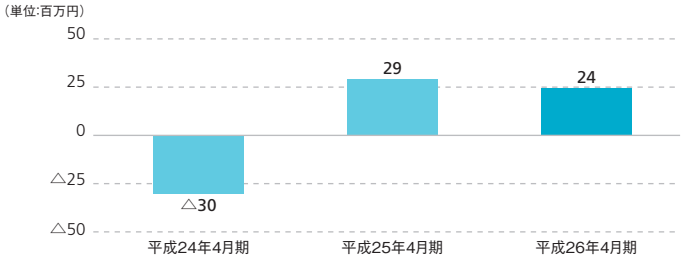
営業利益



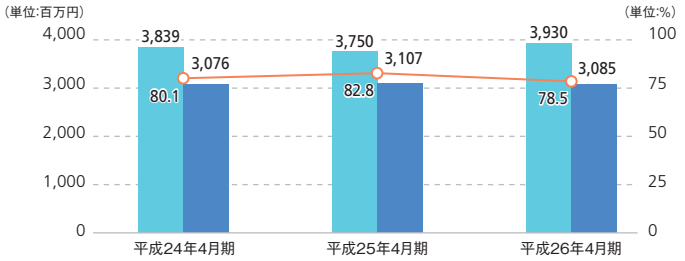
経常利益



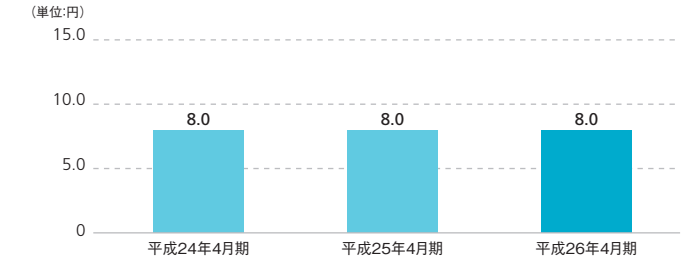
当期純利益



総資産、純資産、自己資本比率



1株当たり配当金（年間）



連結財務諸表

連結貸借対照表

（単位：百万円）

	科目	前期末（平成25年4月30日現在）	当期末（平成26年4月30日現在）
	資産の部		
1	流動資産	2,421	2,551
	固定資産	1,329	1,378
2	有形固定資産	1,254	1,317
	無形固定資産	0	0
	投資その他の資産	74	61
	資産合計	3,750	3,930
	負債の部		
3	流動負債	571	792
	固定負債	71	51
	負債合計	643	844
	純資産の部		
	株主資本	3,489	3,471
	その他の包括利益累計額	△382	△385
	純資産合計	3,107	3,085
	負債純資産合計	3,750	3,930

ポイント解説

1. 大口先の支払方法変更や、当期第４四半期の売上増による現預金、売掛金及び受取手形の増加に加え、棚卸資産の増加によるものです。
2. 機械装置の新設・更新等によるものです。
3. 設備投資の未払分、原材料等の値上げによる増加及び仕入量の増加によるものです。
4. 原材料等の値上げ増加及び仕入量の増加等によるものです。
5. 前期に投資有価証券を売却したことによります。

ホームページのご案内

当社のホームページでは、会社情報、取扱製品などに加え、IR情報を掲載しております。ぜひご覧ください。

http://www.c-mics.com/

連結損益計算書

（単位：百万円）

	科目	前期（自 平成24年5月１日 至 平成25年4月30日）	当期（自 平成25年5月１日 至 平成26年4月30日）
	売上高	2,568	2,653
4	売上原価	1,825	1,930
	売上総利益	742	722
	販売費及び一般管理費	720	686
	営業利益	22	36
	営業外収益	28	20
	営業外費用	7	1
	経常利益	43	55
5	特別利益	21	–
	税金等調整前当期純利益	64	55
	法人税、住民税及び事業税	26	19
	法人税等調整額	9	11
	少数株主損益調整前当期純利益	29	24
	当期純利益	29	24

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目	前期（自 平成24年5月１日 至 平成25年4月30日）	当期（自 平成25年5月１日 至 平成26年4月30日）
営業活動によるキャッシュ･フロー	153	138
投資活動によるキャッシュ･フロー	△54	751
財務活動によるキャッシュ･フロー	△46	△51
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	1
現金及び現金同等物の増減額	52	840
現金及び現金同等物の期首残高	716	777
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	7	–
現金及び現金同等物の期末残高	777	1,617

トピックス

本社製造所に深絞り用フィルム量産設備を増設

平成26年４月、前年度に設置した深絞り用フィルム量産設備を増設、ボイル対応も可能なフィルムを生産することが出来るようになりました。

これにより、深絞り用途向けの更なる売上増を見込んでおります。

「経営ビジョン」と「行動規範」を一新しました

当社グループは、「当社は高機能チューブフィルムの先駆者として、製品の開発、生産及び販売を通して、社会の期待に応え、その発展に貢献する。そのプロセスにおいては、常に優れた品質、納期、価格を追及し、創造性豊かな商品により、お客様に満足感を提供する。そして社員とその家族が幸福となり、社の繁栄を導くことで、永遠に成長を続ける。」の経営ビジョンのもと、以下の５つの行動規範を掲げております。

1．果敢なチャレンジ…変化をチャンスに変え、失敗を糧にして挑戦し続ける
2．謙虚な姿勢……社会、業界の動き、周りの意見に目と耳を傾ける
3．技を磨く努力……常に向上心を忘れず、その道のプロをめざす
4．強い実行力……期限を明確にし、具体的なアクションで目標を達成する
5．明るく前向きな心…周りに対し、決して諦めない勇気と元気を与える

会社の概況

（平成26年４月30日現在）

社名	MICS化学株式会社
資本金	７億74百万円
創業	昭和34年２月
従業員	77名（他に臨時雇用者15名）
主要な事業内容	多層チューブフィルムの製造、販売 ウレタンチューブフィルムの製造、販売 グラビア印刷ならびに製袋加工 シュリンクラベルフィルムの加工販売 その他合成樹脂製品の販売
本社	愛知県愛知郡東郷町諸輪北山158−89 電話　0561−39−1211 URL : http://www.c-mics.com/

役員　（平成26年７月29日現在）

代表取締役社長	三宅利定
取締役	伊藤公一
取締役	伊藤久美
取締役	丸山　等
取締役	伊藤　聡
取締役	稲垣功二
常勤監査役	長谷川　隆
監査役	田中孝治
監査役	佐原司郎

会計監査人　有限責任監査法人トーマツ

事業所

札幌営業所	札幌市手稲区新発寒６条1−1−5
仙台営業所	仙台市青葉区本町1−14−18
東京営業所	東京都中央区大伝馬町17−1
名古屋営業所	愛知県愛知郡東郷町諸輪北山158−89
大阪営業所	大阪市福島区福島1−3−11
広島営業所	広島市南区京橋町9−3
福岡営業所	福岡市博多区豊1−8−21
本社製造所	愛知県愛知郡東郷町諸輪北山158−89
東京製造所	埼玉県越谷市小曽川字居377
札幌製造所	札幌市手稲区新発寒６条1−1−5

（※ 平成25年11月より従来の工場を製造所と呼称変更しております。）

子会社

エイワファインプロセシング株式会社	埼玉県越谷市大間野町３丁目108
米可思化学商貿（蘇州）有限公司	中国江蘇省蘇州市高新区狮山路88号

MICS化学株式会社

（証券コード：7899）

愛知県愛知郡東郷町諸輪北山158−89
電話　0561−39−1211㈹

株式の状況

（平成26年４月30日現在）

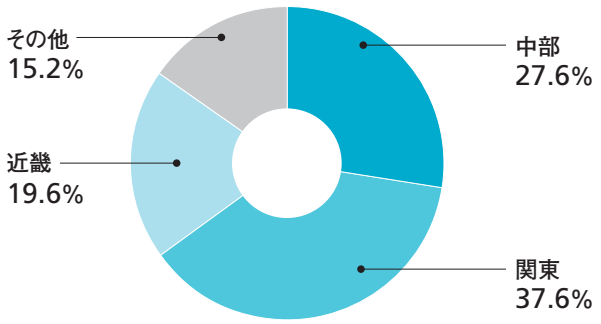
発行可能株式総数	23,850,000株
発行済株式の総数	5,850,000株（自己株式610,606株を含む）
株主数	1,275名

上位10名の株主

株主名	持株数（株）	持株比率（%）
盛田エンタプライズ株式会社	2,608,000	49.77
名古屋中小企業投資育成株式会社	210,000	4.00
MICS化学取引先持株会	134,800	2.57
MICS化学従業員持株会	127,674	2.43
株式会社三井住友銀行	120,000	2.29
歌川勝久	68,000	1.29
林　隆司	52,600	1.00
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	51,100	0.97
奥田耕三	45,000	0.85
伊藤公一	43,000	0.82

（注）当社は自己株式610,606株を保有しておりますが、上記からは除外しております。また、持株比率については自己株式を控除して計算しております。

地域別株主構成



株主メモ

事業年度	５月１日～翌年４月30日
期末配当金受領株主確定日	４月30日
中間配当金受領株主確定日	10月31日
定時株主総会	毎年７月
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081　東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 電話 0120−232−711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所　JASDAQ市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL　http://www.c-mics.com/ （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）
1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。